

(公財)はごろも教育研究奨励会助成

2023
オムニバス
授業

地球環境史学



ふじのくに
地球環境史
ミュージアム

Museum of Natural and
Environmental History,
Shizuoka

地球科学や生物科学の分野の第一線で活躍する研究者をお招きして、専門分野における最先端の研究成果をわかりやすく、深く、面白く、オムニバス形式でお伝えします。ふじのくに地球環境史ミュージアムで、自然と人の暮らしの過去、現在、未来を考えてみませんか。

ワニはうなり、サルは歌い、ヒトはしゃべる

2023年6月24日(土) 14:00-15:30



西村 剛

言語の起源と進化は人類進化の一大イベントです。私たちは、音声を使って言語コミュニケーションしています。ヒトは、アイウエオといった音素を連ねて会話しますが、サル類は、音素ではなく、音声の大きさや長さ、高さなどに変化をつけてコミュニケーションします。私たちの研究グループでは、ヒトに系統的に最も近いサル類を対象に、音声を作る身体の特徴やその運動の仕組みについて研究を行ってきました。その研究の縁で、ワニにヘリウムガスを吸わせて唸らせて音声を解析するという国際共同研究に参加して、2020年にイグノーベル音響学賞を共同受賞しました。それらの成果を織り交ぜながら、ヒトの音声言語がどのように進化してきたのかについてお話します。

京都大学ヒト行動進化研究センター 准教授



ミャンマーにおける植物多様性を探る - 多様性の保全と持続的利用 -

2023年7月2日(日) 14:00-15:30



藤川 和美

東南アジアの西端に位置するミャンマーでは、近年の人口増加や経済成長に伴う生態系の破壊や資源の枯渇などが喫緊の課題となっています。そこで、植物多様性保全と住民の所得向上を同時に図ることを目的に、植物資源の持続的利用＝山採りしていた野生種を栽培する活動を行いました。栽培を試みた植物は、山採りされ高麗芋が日本や中国などへ輸出されていた、ミャンマーに自生するコンニャク属の植物です。当該地域に即した栽培方法を導入した結果、今では地域の重要な換金作物となっています。本講演では山間地域でのホームガーデンの役割や、2021年2月のクーデター以降におけるミャンマーの状況など最新の情報も含めご紹介いたします。

高知県立牧野植物園 研究員



南極湖沼堆積物からみた氷床後退とその後の環境変遷 - 南極沿岸に生息する植物プランクトンとその遺骸 -

2023年9月30日(土) 14:00-15:30



香月 興太

氷の大陸である南極大陸においても露岩域と呼ばれる基盤岩が露出した場所があり、南極における重要な生物活動の場になっています。露岩域の湖沼には植物プランクトンを中心とした生態系があり、植物プランクトンの遺骸が湖底に積もっています。この湖底の堆積物と堆積した植物プランクトンの遺骸を調べると、かつて湖がどのような環境であったかがわかり、その環境の変遷からさらに、南極氷床がどのように広がってどのように溶けたということや、氷床が溶けた後に南極沿岸がどのように隆起したのかなどを推測することができます。ここでは、南極沿岸湖沼やその周辺の堆積物を用いた研究を中心に過去1万年間の南極沿岸部の環境変化を紹介します。

島根大学エスチュアリー研究センター 講師

